

王滝村 **議会 だより**



令和 6 年 4 月号



4 名の入学生を迎えた王滝小学校入学式

令和 6 年度一般会計当初予算	・ ・ ・ ・	2P
議案審議・一般質問	・ ・ ・ ・	3～7P
議会報告他	・ ・ ・ ・	8P



NO.164



令和 6 年度一般会計当初予算可決

前年比 14.8%増額 総額 22 億 1,053 万円



3 月定例議会は 3 月 11 日に開会、2 日目を 19 日に行い、令和 6 年度一般会計当初予算を含む議案全てを原案通り可決した。一般質問には、西村祥夫氏、三浦征弘氏、倉橋孝四郎氏の 3 名が登壇した。

議第 1 号

令和 5 年度一般会計補正予算（専決処分）

- ◆社会福祉費 565 万 5 千円の追加
 - ・国の物価高騰対策に係る低所得世帯への給付金
- ◆児童福祉費 7 千円
 - ・令和 4 年度児童手当国庫負担金返還金
- ◆土木管理費 27 万 3 千円
 - ・幕島地区の急傾斜地崩壊対策事業に係る県工事負担金

議第 2 号

王滝村手数料徴収条例の一部を改正する条例（専決処分）

- ◆戸籍謄本等の広域交付戸籍謄本等の交付が、本籍地以外の窓口でも可能となるため、広域交付に係る手数料を規定した。戸籍広域交付 450 円、除籍広域交付 750 円、受理証明書 350 円
- ◆戸籍電子証明書提供用識別番号の発行窓口等にて識別符号を発行する場合に戸籍関係は 400 円、除籍関係は 700 円

議第 3 号

木曽広域連合ふるさと基金に係る出資金の権利一部放棄について

- ◆圏域の地域振興を図るために、ふるさと基金の一部を取り崩して財源を充当する
- ・基金出資比率により王滝村は 17 万円

議第 4 号 5 号

フルタイム、パートタイム会計年度任用職員の給与の改正

- ◆勤勉手当の追加

議第 6 号

国民健康保険税条例の一部改正

- ◆国民健康保険事業の財源確保のため、所得割を 10.05%→10.35%、均等割を 35,100 円→36,800 円、平等割を 32,400 円→33,400 円に改正するもの

議第 7 号

御嶽山噴火災害対策復興基金の設置及び管理に関する条例を廃止する条例について

- ◆御嶽山に関する主要安全対策の整備が終わった為

議第 8 号

令和 5 年度一般会計補正予算

- ◆1,303 万円の減額補正

議第 9 号

令和 5 年度特別会計国民健康保険補正予算

- ◆85 万円の減額補正

議第 10 号

令和 5 年度特別会計国民健康保険診療施設費補正予算

- ◆147 万円の減額補正

議第 11 号

令和 6 年度王滝村一般会計予算について

- ◆歳入歳出 22 億 1,053 万円と定める
 - ・田の原観光施設建設費用として 2 億 8,650 万円の予算計上もあり、過去最大の当初予算となった。
 - ・財政調整基金から 1 億 8,657 万円繰り入れ、残りは 10 億 9,974 万円

議第 12 - 16 号

国民健康保険事業予算、国民健康保険診療施設費、高齢者医療事業予算、簡易水道事業会計、下水道事業会計

議第 17 号

観光施設事業支出金

- ◆1 億 3158 万円の計上
 - ・指定管理料 3,500 万円、索道施設修繕 4,713 万円、圧雪車・除雪車整備費 1,165 円、圧雪車・降雪機リース料 968 万円、附帯施設修繕 300 万円、国有地借地料 636 万円を計上

主な事業と議案審議

田の原観光施設建設 2億8,634万円

※過疎債使用

令和5年度に解体した田の原山荘跡地に飲食・休憩機能を有する新しい観光施設を建設する



問（倉橋） 2億8,634万円の建設費だが、過疎債を使うにしてもかなり大きな金額の事業。今後のビジョンは？

答（村長） 登山者や来訪者が増加傾向にありその多くのニーズに応える為建設をする。現在の田の原観光センターでは老朽化で対応できない。御嶽山一帯、田ノ原一帯をリニューアルし、グリーンシーズンの来訪者の増加を狙う。

問 指定管理契約する際、契約書や仕様書に何を盛り込むか等はかなり重要になってくるが現時点での考えを伺う。

答（総務課長） 募集要項や仕様書の段階で顧問弁護士に中身をチェックしてもらう。

問 村民の不安として指定管理料や観光ばかりにお金をかけ過ぎではないかという事もある。そのような事に対して理解される制度設計や契約内容が必要。指定管理者の選定委員だが、専門家や外部有識者を入れた方が良いと思うがどうか。

答（総務課長） 選定委員に関しては外部有識者を入れる形で検討している。また、顧問弁護士にアドバイザーとして入ってもらう。指定管理料は未定だが、指定管理料を払うのではなく大きく売り上げてもらい利益を村に納めてもらう運営になればいいと思う。

一時預かり事業

44万円

子育て支援として一時預かりを実施する場所は保育園。窓口は福祉健康課。



問（吉田） ようやく村も一歩進んだと思う。事業の対象者数と年間実施日数はどれくらいを見込んでいるか。

答（福祉健康課長） 対象は2世帯2人を予定している。利用については、村外の保育士に依頼する関係で月2回程度となる。

問 対象となる家庭の要望に応じて対応ができるのか。あるいは保育士の日程に合わせての対応となるのか。

答（福祉健康課長） 保育士の都合によるため家庭の希望にそった形での対応はできない。

問 実施時期はいつ頃を予定しているか。要項や料金体系などはできているのか。

答（福祉健康課長） 実施要項や料金体系の確立も含めできるだけ早く実施したい。

ハザードマップ作製

203万円

長野県西部地震から40年が経過することから、王滝川浸水想定区域の指定など、最新のデータを記載したハザードマップを作成する



問（胡桃澤） 今後の細かい修正や観光客等への情報提供のためにも、早くデジタル化してホームページ等で公開するべきだと思うが。

答（総務課長） 見積もりは依頼している。今後検討していきたい。

御嶽古道清滝木橋改修

1,885万円

老朽化している清滝第2号橋の改修工事を行い、御嶽古道の通行者の安全を確保し観光振興を図る



問（胡桃澤） 近年は台風等での倒木も多いため、改修した橋が長く維持できるよう、合わせて回りの木の間伐等も行ってはどうか。

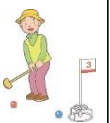
答（企画推進室長） そのようにしたい。

マレットゴルフ場整備

61万円

※元気づくり支援金

マレットゴルフ場のコース整備を行い、村民の健康増進を図る



問（吉田） 整備は必要なことと認識しているが、将来的に村の中心地に移転することも検討しては。

答（教育長） いま現在は現状の施設の整備を進めて欲しいという要望である。

新規就農者補助金について

200万円

問（胡桃澤） 国の制度で2年目となるがまだ他町村と比べて圧倒的に農業支援のメニューが少ない。移住・定住対策と農業支援を強く結びつけていないことが、大きな原因だと考えるがいかがか。

答（企画推進室長） 今後は、そのような支援プランについても考えていく。

村外商品券の秋販売実施

3,000万円

問（胡桃澤） プレミアム商品券の宿泊での利用率は40%程度で宿泊優待券と言えるようなものにはならないが、その差はどのようにして埋めるのか。

答（企画推進室長） 2日券付きのお得な宿泊プランなどの新たなサービスが提供できないかスキー場や関係団体と話をしていきたい。

田の原観光センター指定管理料 390 万円

問（胡桃澤） 現指定管理者が新規に食品営業許可を取るのには難しく、今シーズンも営業届だけの営業になると思うが、そうすると販売以外のサービスは何も行えない。であれば提供できるサービスに対して1日3万円の指定管理料は高すぎると思う。仕事量だけで考えれば、1人で十分に対応できるし経費がほとんどかからないので、1日の売り上げが0円でも毎日1万円以上の利益が出てしまうが妥当な金額だと思うか。

答（総務課長） 指定管理料は年度協定でその都度定める事となっているが、指定管理者の募集要項に指定管理料については、1日3万円×営業日数としてあったため、変更はできない。

教育費について 8,723 万円

問（倉橋） 前年度に比べ1,277万円増額しているものの、当初予算の占める割合は4.0%で8,723万円となっている。R5年度の情報だが、根羽村7.95%、中川村12.6%、と王滝村の約2倍の%を占めている。各町村によって教育費の算定の仕方は異なるものの中学校休校や小学生が10名、児童がいない学年もある。この状態を改善していくためには教育費にかける予算の拡充が必要だと思うが。

答（村長） お金ではなく環境を充実させる必要があると思う。必要な時に必要な事を実施する。

問 子育てに関わる児童福祉費も128万円の増額しているが少子化、子育て支援は他の市町村もかなり力を入れてきている。村づくりにおいて子育て環境を整える事はとても重要だと思うので保護者や現場の声を大切にしながら必要な事業には必要な予算配分をお願いしたい。

その他の主な事業

◆田の原登山道整備事業 250 万円
・湿原の環境改善の為、現登山道の整備（石畳や涵養力を改善する構造へ）に取り組む

◆学校給食補助 184 万円
・小学校児童の給食費を全額補助

◆UIJ ターン就業補助金 60 万円
・東京圏、愛知県、大阪府から移住し、就業（または創業）した方に支援金を支給する

◆空き家対策補助金 229 万円
・空き家有効活用のため、修繕費用、家財搬出や片付け費用、空き家探し宿泊費用に要する経費の一部を補助する

◆御嶽山安全対策（ハード事業） 2,808 万円
・情報設備整備（蓄電池システム改修、非常時発電機切替、遠距離無線装置設置）、王滝頂上避難施設トイレ改修、二の池トラバース修繕等

◆造林事業 1,554 万円
・県補助金や水と緑のふるさと基金を活用し、村有林の間伐や獣害防除を継続的に実施する

◆村有施設 LED 化 96 万円
・省エネ推進のため、村内街路灯の LED 化を推進する

◆放課後子ども教室運営事業 162 万円
・子育て世帯への支援を図るため、委託事業により継続する

◆社会福祉協議会負担金 1,477 万円
・社会福祉事業運営の補助及び福祉活動専門員設置を継続する

◆村道維持補修 2,572 万円
・九蔵地区の用水路排水対策、田の原地区法面復旧、村道自転車走行帯設置

◆簡易水道施設整備 2,397 万円
・溝口水源の導水管整備、瀬戸地区本管エア抜き弁設置等、ばんだ第2ポンプ室機器更新等

◆DMO 補助金
・国の交付金を活用して（一社）木曽おんたけ観光局補助金を継続し、木曽町と連携した観光地域づくりに取り組む



御嶽スキー場は今シーズン 35,600 人の入込み。



一般質問 村政を問う



本文は答弁も含め質問者の執筆をもとにしています

※三浦議員も一般質問はしましたが、原稿の提出がありませんでしたので掲載しておりません

任期の折り返し点を迎えて村長の考えを
きく

西村祥夫

《スキー場の収支状況について》

問 スキー場の収支状況等について、現状認識と課題をどのようにとらえているか。

答（村長） 入込者数、営業収入では、対前年比 110%程度を維持しているが、収支状況の報告を見る限り、大変厳しい収支状況である。昨シーズンは物価高騰、特に電気料金の高騰により、経営環境は非常に厳しい状況だった。今シーズンについても、指定管理料に物価高騰対策分を上乗せしてスキー場指定管理を行っている。現時点の経営状況は、電気料金高騰については、前シーズンと比較し落ち着いており、加えて、入浴施設を休止したことによる燃料、光熱水費は抑えられているものの、暖房及び車両用の燃料、食材等の原材料費や、人材派遣の費用が高止まりの状況のため、リフト料金の見直しを行っているが、そのことによる経営全体の改善にはつながっていない状況。また、現指定管理者による 1 年目の営業遅延の影響が大きく、そのことに伴う長期借入金の中々解消されない状況。このような現状と判断する中、スキー場施設所有者としては、第 1 に今後、スキー、スノーボード人口が大きく伸びることは考え難いこと、第 2 に既存の施設を改修し、集客力を向上するための設備投資は財政面のハードルが非常に高いこと、等から多額の村費を投入してのスキー場運営には限界がある



保育園の入園式

と認識しており、同時にそれが現時点の課題と考えている。

問 去年よりは収支は改善しているように見えるが、食堂施設が問題と思う。原価率が 55%というのは異常な高さと言える。標準的な原価率は 30%程度と言われている。従業員の賄の分を考えてもありえない数値である。しかもその中で村内業者からの仕入れは 4.9%のわずか 60 万円で、以前に村と議会から極力村内から仕入れをするようにとの申し入れをしていたことにも反している。2 月末現在で示されたスキー場の赤字は 450 万円程となっているが、仕入れの増加分とほぼ同額となっていて食堂部門が足かせになっている状態ともいえる。また、三笠ロッジに作られた宿泊スペースも設備の不備から営業許可が取れていないと聞く。こんなことは事前に確認できることで以前からの経営に関する詰めの甘さが解消されていないと言わざるを得ない。

答（村長） 厳しい指摘をいただいた。村としてもしっかりとした経営をしてもらわないと困るので、改善してもらうようにしていきたい。

《小学校の運営について》

問 王滝小学校について、村民から運営面で不安視する声が届いている。現状の問題点をどのように認識しているか。また、問題解決に向けた取り組みをどのように考えているか。

答（教育長） 不安視する声については、子どもの人数減少を大きな課題として理解している。村長の答弁で「小学校存続」の考えが示された。教育委員会としても、少人数における学校運営、教育環境を整えることに努めている。学校運営を進める上では、問題解決に向けた取り組みとして学校の先生方と保護者をはじめとする地域の方の話し合いの中で、出された課題や問題点を納得のいく解決策を導き出して進め、展開を図ることが重要であると考えている。なお、学校では、数年前から保護者の方や地域の

皆様からご意見を頂ける機会を設け、その意見が反映された、地域と共にある学校づくりを進めている。例えば、保育園と小学校の連携の取組み、異年齢の学び、自由進度学習、他校との合同授業、地域の方との交流活動など、こういったものを学校運営の重点として今後も取り組んでいく。

問 今後、児童が増えることはまずないと思う。せっかく来てくれた先生が途中で辞めたり休んでしまうようでは子どもたちも不安になってしまう。村民からは学校はどうなっているんだとの声もある。今はどこでも先生は集まらなないと聞く。複式学級をなくすために無理をすることはないと思う。

答（村長） 教員の確保は難しい。学校の存続が何よりも大切なので、複式学級も考えなくてはならないが、すぐに実行できるものではない。学校の存続を第一に教育環境を整えていきたい。

問 教員確保の難しさは理解している。子どもたちに悪影響がないような取り組みをしていってもらいたい。余談ではあるが、校舎の半分近くが空いていると思われる。何か有効利用する考えはあるか。

答（村長） かなりの部分が空いていることと耐震構造であることから、防災拠点としての役場庁舎の必要性や村民の集まれる場所としてなど有効利用について検討していきたい。

《林鉄による観光拠点作りについて》

問 今秋予定されている林鉄サミットに向けて、軌道改修などについて、予算計上する考えはあるか。

答 村づくり推進特別委員会が2月9日開催され、議員の皆様とりんてつ倶楽部・森林鉄道の会の皆様と意見交換がなされた。話し合いの中で、軌道敷のカーブの緩和について、雪解け後、春に現地測量を行いながらカーブの緩和を進めるお話をいただいた。村としても、会の方と現地を確認して話し合う準備を進めていく。グランドの土手を削ることも想定されるので、確認の後で必要に応じて予算計上など考えたい。また、会の方が考える懸案事項も話されていたので、改めて話し合いを進めたい。

問 村づくり推進特別委員会でも4月に意見交換会を開いて、5月には県内の林鉄が保

存されている地区の視察を検討しているところである。スキー場以外の観光拠点を少しでも作っていきたいという思いもあるので、村としても是非前向きに検討してもらいたい。

専門家や外部有識者の登用の考えは

倉橋孝四郎

《課を超えた横との連携について》

問 村の郷土資料館の管理運営は人手不足の問題や費用面での課題はあると思うが今の現状と今後のビジョンを聞きたい。

答（教育長） 歴史文化に関する資料を収集保管し、資料の調査研究を行うことを目的に教育委員会が施設管理を行っている。村誌編纂室から移動した資料を順次整えたいと考えている。活用については、公民館活動の中で御嶽山学習講座・公民館まつりでの様々な展示を含めた学習会を継続していきたいと考えている。村にとって重要なものを多くの方にお伝えする機会が増やせるようにしていきたい。

問 文化財としての価値を後世に向けて確実に維持する「保存」と、その価値を踏まえ適切に現代社会に生かす「活用」の双方を進めることが求められている。文化歴史・自然・アクティビティを結びつける「アドベンチャーツーリズム」の推進について現在の状況と、令和2年度に日本アドベンチャーツーリズム協会に正会員として長野県観光機構、賛助会員に長野県が参加しているが、連携はどうか。

答（企画推進室長） 連携は特になく現時点で加盟は考えていない。観光局が申請した王滝村を中心としたインバウンドツアー事業の補助金が採択されたのでR6年度は観光局と木曽町、王滝村で進めていく予定だ。

問 それぞれの担当課だけで考えるのではなく、例えば、観光と文化歴史の保存、教育と移住、文化歴史の保存や移住、といったように横の連携を強める必要もあると思うが、それ以上に横断的に動ける人材が不足しているように感じるがどうか。

答（村長） 横との連携は重要だ。管理職にも課をまたいだ連携を意識するように伝えていく。しかし、職員数が減り業務が増えている事から人材不足ではある。

問 地域創造力アドバイザーなど、特別交付金措置の国の補助金の活用が今以上に求められる。令和8年度の王滝村総合計画策定の際には、外部有識者にも入ってもらいながら作成していくのも良いと思うが。

答（企画推進室長） 委員の改選期がR6年度末。外部人材の登用も考えているが、県内では地域とのミスマッチがあるので、先進自治体の事例を参考にしながら検討していきたい。

《ふるさと納税について》

問 毎年多くの方から支援をいただいているふるさと納税だが、支援者への実績報告をどのようにしているのかと、今後の展望を聞かせてもらいたい。

答（企画推進室長） 毎年6月までに報告書を作成し、村ホームページで公表を行っている。当該年度にご寄付いただいた皆様に対しては、報告書を印刷して全員に郵送で届けている。今後の展望だが、当村はふるさと納税が制度化された平成20年より以前、財政難に直面していた平成18年に「村づくり寄付条例」を制定し、純粋に村を応援いただく支援者の皆様と協働で、寄付を通じた参加型の村づくりを実践してきた。その間、令和元年度まで返礼品の設定はなかったが、令和2年度より多くの方に村を訪れていただきたいとの思いから、いわゆる「コト消費型」の返礼品をご用意させていただいており、今年度に関しては「アウトドアレースの参加権」が好調なこともあり、噴火災害があった平成26年度に迫るご寄付をいただいている。また遊漁許可証を返礼品とする寄付も少しずつ増えてきており、今後につきましては「ふるさと応援商品券」と合わせて「体験型返礼品」の充実を図り、ふるさと納税の増加とともに、村への来訪促進と地域経済の活力創出に取り組んでいきたいと考えている。

問 郵送とホームページへの記載はいいと思うが、ふるさとチョイスというサイトを見る限りでは、「自治体からの寄付金の活用報告」に何も書かれていない。加えて、選べる使い道が6つある訳だが、説明が少し乏しいように感じるし、報告もかなり簡素だなという印象。例えば教育の推進関連に寄付に対して、読書会の様子や参加している村民の声を載

せたり、森林整備に関しても整備することで村民はどのように思っているのか、そのようなリアルな声を届ける事が重要だと思うがいかがか。

答（企画推進室長） 確認して載せれるものは載せれるようにしていきたい。

問 一つ一つを丁寧にして今の支援者に引き続き応援してもらえよう、継続して進めていただきたい。また県内58町村で実施している企業版ふるさと納税だが、今後の導入は。

答（企画推進室長） 企業版ふるさと納税については、市町村総合戦略を基に地域再生計画を作成し、内閣府から認定を得ることで民間企業から寄付を募ることができる制度となっている。当村では一般のふるさと納税の受け入れ先である「水と緑のふるさと基金」に対し、民間企業から累計で約5,000万円のご寄付を受付けている。企業版ふるさと納税を活用した寄付については、今まで導入の検討をおこなったことはあるが、取組みの実績はない。企業版ふるさと納税の特例措置は、令和2年度から6年度までの期間限定となっているが、特例措置の期間延長の可能性もあることから、今後国の動きを注視しつつ、制度活用に向けて検討を行っていきたい。

問 もし特例措置の期間延長があったら是非とも進めていった方がよい。企業版ふるさと納税だが、総合戦略の推進にあたり寄付企業との連携を進めていくことで、地域課題の解決に向けた企業との関係性構築のきっかけとなったり、企業側にとっても税額控除やCSR（企業の社会的責任）の向上等と、お互いにとってメリットがあると思うので推進して行っていきたい。



集落支援員によるこにこ軽体操教室の様子

請願陳情

3月定例会で審議された請願・陳情等は下記のとおりです。

○育児休業中の保育の継続と一時預かり制度の充実に関する請願書について（趣旨採択）

※趣旨採択の理由

子育て世代が村で安心して子育てを行える環境の実現には、まだ多くの課題があると認識しているが、村の財政状況や人員を鑑み、直ちには村政に反映できないこと、令和6年度当初予算に一時預かり事業が新規に計上されるなど、行政も重点事業として子育て支援に取り組む姿勢も見られたことによる



監査委員

王滝村監査委員に鍛冶谷洋一氏（上条）が議会の同意を得て選任された。任期は令和6年3月19日から令和10年3月18日までの4年間。

編集後記

令和6年度が始まり、王滝村観光産業検討委員会の議論も2年目となった。諮問機関ではないため、委員会の意見で何かが決まるわけではないが、様々な資料の提供を受けて、それらの資料を基にした、客観的な視点での議論が可能となっている。可能ではあるが実際には難しい事も多いようだ。「客観」の対義語は「主観」である。委員会には、客観的な視点での議論を期待したい。（公）

発行/王滝村議会

編集/議会だより編集特別委員会

長野県木曽郡王滝村 3623/(電)0264-48-2001

議会日誌

【12月】

- 19日 村議会12月定例会・議会だより編集特別委員会
- 26日 愛知中部水道企業団表敬訪問・例月出納検査（11月分）
- 31日 除夜祭

【1月】

- 1日 歳旦祭
- 4日 県庁新年あいさつ回り
- 5日 新年御神楽始め祭・年賀奉告祭
- 10日 木曽郡町村議会議長会・後藤代議士との行政懇談会（東京都）
- 11日 衆参議院要望活動、あいさつ回り
- 12日 王滝村消防団出初式
- 15日 議会だより発行（163号）
- 17日 県道御岳王滝黒沢線建設部要望活動（長野市）
- 23日 議会運営研修会 中南信地区（松本市）
- 24日 木曽町商工会賀詞交歓会（木曽町）
- 25日 例月出納監査（12月分）
- 31日 木曽警察署落成式

【2月】

- 2日 長野県地方税滞納整理機構議会定例会（長野市）
- 3日 水資源機構とのスキー交流会
- 5日 長野県市町村総合事務組合議会・長野県自治振興組合議会・長野県市町村振興協合理事会（長野市）
- 6日 全国町村議会議長会（東京都）
- 7日 北信越町村議会議長会（東京都）
- 8日 全国議長会定期総会・豪雪地帯町村議会議長会（東京都）
- 9日 木曽寮竣工式（上松町）・第1回村づくり推進特別委員会・第1回議会運営委員会
- 11日 砂防懇談会（大桑村）
- 13日 長野県町村議会議長会役員会（長野市）
- 15日 広域連合総務常任委員会視察研修（伊那市）
- 16日 後期高齢者医療広域連合議会定例会（長野市）
- 17日 後藤衆議院議員国政報告会（木曽町）
- 20日 長野県町村議会議長会定期総会（諏訪市）
- 21日 木曽郡町村議会議長会・広域連合議会議会運営委員会・総務常任委員会（木曽町）
- 22日 広域連合議会経済観光常任委員会（木曽町）
- 26日 全国町村議会議長会表彰伝達式（南木曽町）
- 28日 例月出納検査（1月分）
- 29日 広域連合議会2月定例会（木曽町）

【3月】

- 5日 第2回全員協議会・村づくり推進特別委員会
- 11日 村議会3月定例会